日本リモートセンシング学会 第 57 回学術講演会
特別セッション(1)「地球観測衛星の中長期ロードマップを考える」の実施結果報告

平成 26 年 12 月 10 日

副会長/実利用委員長　赤松幸生

第 57 回学術講演会において、平成 26 年 11 月 6 日 10 時 55 分～12 時 25 分の 90 分間を頂き、添付１のプログラムに従い特別セッションを開催した。内閣府による新宇宙基本計画の策定に伴う地球観測衛星のロードマップ検討は急ピッチで進んでおり、本学会員にとってもその行く末は重要な意味を持つ。そうした中、添付４の写真に示すように、第１日目の午前中の開催にも関わらず会場には多数の方が参加され、本テーマへの関心の高さが伺えた。

先ず､司会の赤松から､添付２の資料に基づき本セッションの背景と目的の説明を行った。久世会長からは開会挨拶として、最近の地球観測衛星のロードマップをとりまく状況と、その中での学会としての取組み経緯や意義が提示された。その後、パネラーによりロードマップに関わる各視点からの情報提供がなされた。

祖父江企画委員長からは、産学 20 数団体が参加しユーザサイドとしての提言活動等を行っている TF コミュニティ（略称）の概要と、ロードマップにも関係する最近の提言内容が紹介された。渡辺産官学連携委員長からは、TF コミュニティの実利用連絡会の活動状況（とくに北極圏監視システムの検討・提案）が紹介され、実利用の視点からはハードだけでなくソフト面の検討が重要であることが提示された。RESTEC の福田氏からは、科学技術の視点での活動として、JAXA 地球圏総合診断委員会や文科省地球観測利用戦略コミュニティ他の取組みが紹介され、科学／研究開発と実利用の二元論を克服すべきとの意見が提起された。最後に再び祖父江企画委員長より、本学会としてのロードマップの検討状況と現時点での案が提示された。

続いて、パネラーからの情報提供を題材に、会場との意見交換を行った。会場から出された主な意見を添付３に示した。きわめて限られた時間であったが、多様な分野の方々から、大変示唆に富んだ貴重な意見を頂けたと考えている。なお、本テーマについては、本特別セッション後に行われた評議員会でも取り上げ、貴重なご意見を頂いた。最後に、久世会長より「地球観測衛星を取り巻く環境が厳しい中、TF コミュニティ等を通してどうロードマップを適正化していくのか、ここが正念場である」とのお言葉を頂き、閉会となった。

冒頭あるいは添付２に示したように、今回の特別セッションおよび本学会としての地球観測衛星ロードマップ（案）の検討は、内閣府が急ピッチで進める検討やパブリックコメントに意見表明をするため、急ぎ実施したものである。時間が限られる中、必ずしも十分な意見集約には至れなかった面もあるが、本学会として一つの案を提示できたことは重要な成果であったと思われる。内閣府はロードマップを随時見直す方針を示しており、本学会としても今回の特別セッションに引き続き、ロードマップのさらなる検討、高度化および TF コミュニティを通じた提案作成に取り組んで行きたいと考えている。

Copyright (c) 2014　RSSJ　All Rights Reserved.

＜添付資料＞

・添付１： プログラム

・添付２： 本セッションの背景と目的

・添付３： 会場からの意見メモ

・添付４： 会場写真

＜講演資料＞

開会挨拶　　久世宏明 会長

TF 活動等について　　祖父江真一 企画委員長

TF 実利用連絡会の活動について　　渡辺忠一 産官学連携委員長

科学研究の視点での活動について　　福田徹 RESTEC

RSSJ のロードマップ　　祖父江真一 企画委員長

Copyright (c) 2014　RSSJ　All Rights Reserved.

添付１： プログラム

プログラム

- 概要紹介　赤松幸生（副会長/実利用委員長）
- 開会挨拶　久世宏明（会長）
- パネラーからの情報提供
  - TF活動等について　祖父江真一（企画委員長）
  - TF実利用連絡会の活動について
    渡辺忠一（産官学連携委員長）
  - 科学研究の視点での活動について
    福田徹（RESTEC）
  - RSSJのロードマップ案　祖父江真一（企画委員長）
- パネルディスカッション　司会：祖父江真一
  - 質疑応答
  - 全体討論

添付２：本セッションの背景と目的

セッションの背景と目的

- 平成30年度以降に我が国としての地球観測衛星計画の空白時期の発生懸念
- 宇宙政策委員会で今年中に宇宙基本計画の見直しがなされる予定
- TF（後で紹介）より、参加各学会・団体からのボトムアップで衛星ロードマップ（必要なミッション、センサーなど）をとりまとめ、当該政策部会などに提示していきたいとの要請
- 9月の理事会で当学会としてのロードマップ提案を10月にとりまとめ、理事会の了承のもとTF事務局に提案することとした
- 本セッションでは、TF等最近の関連動向、当学会から提案したロードマップなどについて、学会員と情報共有・議論を行い、今後の学会活動に反映する

Copyright (c) 2014　RSSJ　All Rights Reserved.

添付３：会場からの意見メモ

- JAXA 地球圏総合診断委員会の報告書は、近々公開される予定で参考になる。本学会ロードマップ案では大気科学系のセンサが少ないが、ここは日本がやるべきか議論が必要である。技術的優位性はあるのか、それをどう出していくのかが重要である。
- リモートセンシング情報をどう Geospatial 情報との複合利用に持っていけるかが重要である。その面からも、誰もが分かりやすい光学衛星整備が停滞していることは危機的な状況である。
- ロードマップがセンサ別に整理されているのは良い。本学会は「計る」学会で、利用を考える他のユーザ学会の要望をどう実現するかが役割である。クライテリア（技術、金、ユーザ数、国際連携など）を準備し、どうプライオリティを付けていくのか考える必要がある。
- NASA の decadal survey が参考になる。予算削減等の厳しい要求に耐えたミッションが生き残る。その意味で柔軟なミッションが有効である。サクセスのためのミニマム仕様設定、複数ミッションの相乗り、プラットフォームの対応性強化、基盤ミッションへの適合性（LANDSAT 等）などがキーワードとなる。
- 本学会はセンサ系学会である。ユーザベースの世界に降りていくのか、センサ技術やサイエンスの面から行くのか、選択と集中が必要である。ユーザベースの面であれば、時流から自然災害、PM2.5 等の社会的関心が高い課題への対応を考えて行くべきである。また、これまでの衛星は多目的を指向していたが、これからは特定目的を指向するべきである。
- 農業系の研究機関ではリモートセンシングの研究がやり難くなってきている。30 年やって実用化されていないと、経営サイドから厳しい指摘が出ている。ユーザサイドに金額負担を求めるのは厳しいのではないか。

以　上

Copyright (c) 2014　RSSJ　All Rights Reserved.

添付４：会場写真

多数の方が参加された会場

パネラーからの情報提供

Copyright (c) 2014　RSSJ　All Rights Reserved.